

自分を守る！

ビジネスにつなげる！

社会貢献をする！

30 復旧・復興を支援している例 / その他の事例

1.	2. サプライ関連事業者	3.	4.
災害に強い健康長寿のコミュニティモデルの構築		日本で・あて TE・ARTE 推進協会	
事例番号 237		会	
■業種：医療、福祉		■取組の実施地域：宮城県	
● 首都圏と宮城県在住の退職している看護師ら有志が、東日本大震災の発災直後より中長期ケアの重要性を予測し、任意団体「東日本これからのケア」プロジェクト（平成 25 年 4 月より、現、一般社団法人日本で・あて推進協会）を立ち上げた。同協会では、仮設住居者の心の支えになる活動としてお隣さんづくりを実施し、並行して、ケア拠点の創設をはかることで、住民が健康長寿で生きていくためのプログラムの実施とその支援者となる看護師の研修を行っている。 ● 同協会では、平成 23 年 9 月より、以下の 4 つを目的として活動している。 ①個人或いは家族が自主的な健康・養生法をマスターし、暮らしの中で実行できるようにする。 ②高齢者の力を東松島の文化・伝統を尊重した生活モデルの構築に活用する。 ③相互交流の機会を高めることにより、「近助力」を強める。 ④健康レベルの向上により、要支援・介護レベルの進行を防ぎ高齢者自身の生き甲斐を高める。			

1.	2. サプライ関連事業者	3.	4.
岩手県岩泉町 被災地における高齢者の新たな生きがい創造事業		一般社団法人日本作業療法士協会	
事例番号 238			
■業種：医療、福祉		■取組の実施地域：岩手県	
● 一般社団法人日本作業療法士協会は、被災地の高齢者を対象に、相互に支え合い地域コミュニティの再生・活性化に向けた取り組みを支援することが重要と考え、要介護新規認定者が増加した沿岸部の岩手県岩泉町において、「高齢者の新たな生きがい創造事業」を実施した。同協会は事業実施にあたり、高齢者の役割や生きがいを創造していく手法として、同協会が提唱した「生活行為向上マネジメント」が有効であると考え、同町から依頼を受け実施した。 ● 同事業は平成 24 年 10 月から平成 25 年 3 月まで岩泉町の 4 地区（小本、小本仮設、中野、岩泉仮設）で、12 回実施され、総参加者数は 128 名であった。参加者の健康状態調査（握力、開眼片足立ち、3 分歩行後の脈拍計測等、生活行為確認表を用いた聞き取り調査）を実施した結果、各地区の状況の違いや参加者の健康状態の違いが明らかとなり、被災地における「高齢者の新たな生きがい創造事業」の展開の方法や工夫の仕方も明確になった。高齢者の主体性を引き出すためには、参加者の自ら取組みたい活動に注目し、継続的に活動が展開できるような後押し（決して全面に出ないサポート）が重要であることが確認できた。			